

「Oneヤマト」で 大会の物流ニーズにしっかり向き合い、 東京2020オリンピック・パラリンピックの 大会物流を成功に導きました。



史上最も過酷と評された 大会ロジスティクスを完遂

東京2020大会はこれまでの大会と異なり、東京都を中心に北海道、宮城、福島、首都圏（神奈川、千葉、埼玉、茨城）、静岡各県の広域エリアに、オリンピック42、パラリンピック21の会場がそれぞれ独立して点在し、さらにその多くが過密都市「東京」に集中するという特徴から、「史上最も過酷な大会ロジスティクス」と評され、高度な大会物流の設計と運用が求められました。

またコロナ禍の影響で、各国選手団の入出国スケジュールやレギュレーションの変更、無観客開催の決定、自らの感染対策の徹底など、直前まで大きな設計の見直しや追加を余儀なくさ

れる前例のない大会になりました。

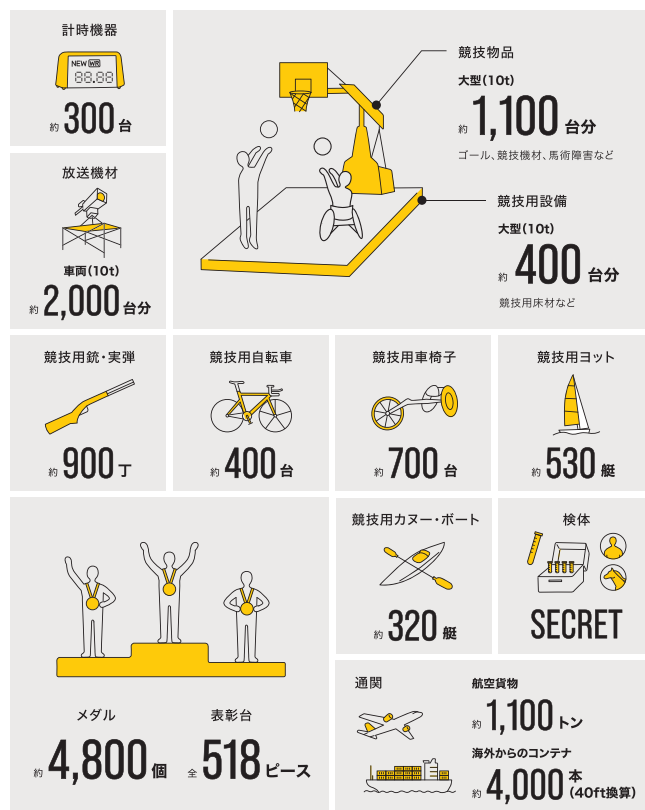
その状況下でヤマトホールディングスは、東京2020オフィシャル荷物輸送パートナーとして、東京2020組織委員会（組織委）と密接に連携し、「Oneヤマト」の経営資源の最大限の活用と、同業他社、協業会社との協業によって、安心、安全な大会物流を完遂し、宅急便に留まらない総合物流力と、物流のあらゆるニーズにしっかり向き合うヤマトの企業姿勢を国、東京都、各国の選手、大会関係者をはじめ、多くの大会ステークホルダーに示すことができました。

自社、パートナー企業の車両約11,000台、 約7,700名の総力を結集

大会物流では各競技会場に必要なテクノロジー機器、競技設備や機材をはじめ、海外から輸入された放送機材や競技用のヨットやカヌー、また選手が携行してきた競技用ライフルや自転車を含む多くの手荷物、選手村の什器備品、ドーピング検体、メダル、表彰台など、選手たちが活躍する舞台を整えるために必要なあらゆる物品を扱いました。

下図は私たちが運んだ物品の一覧ですが、ご協力をいただきワンチームで大会物流を担ってくださった多くのパートナー企業の皆様に改めて、深く感謝申し上げます。

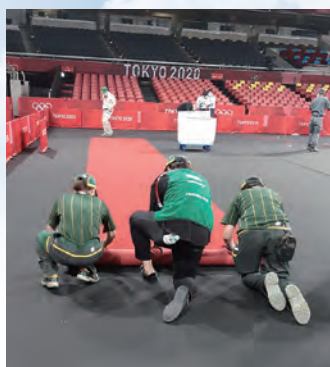
●東京2020大会のためにヤマトが運んだ品々をご紹介します。



※ヤマトホールディングス調べ



©2021 -IOC / -All rights reserved Tokyo 2020



©2021 -IOC / -All rights reserved Tokyo 2020

表彰台セッティングの様子が話題に

大会期間中、「クロネコヤマト」のユニフォームスタッフが「無駄のない動きで手際良く表彰台の設営をしている」様子を各局のニュースが報じたことをご記憶の方もいらっしゃると思います。ヤマト社員のできばきとした動きが注目を浴びました。

さまざまな局面で活きた「Oneヤマト」の物流ノウハウ

大会物流をより精緻、かつ効率的に設計・運用するため、組織委内に点在していた会場別・関係者別の物流ニーズをすべて集約し、独自開発したシステムで物流設計をデジタルでトータルに可視化するとともに、データをTMS(トラフィックマネジメントシステム)に連携することで、スムーズな車両の最適配置を実現しました。このシステムは組織委、協力各社との情報連携に大きく寄与し、突発的な依頼や変更への対応を可能にしました。

また、検体輸送における温度管理やトレースの徹底、公式通

関ガイドの策定、宅急便で培った丁寧な選手手荷物の荷扱いや各会場諸室への什器の搬入・設置、またスピーディな表彰台のセッティングなど、日ごろ培ったノウハウで、選手をはじめとする各国選手団関係者、大会関係者から多くの感謝の言葉を頂戴しました。

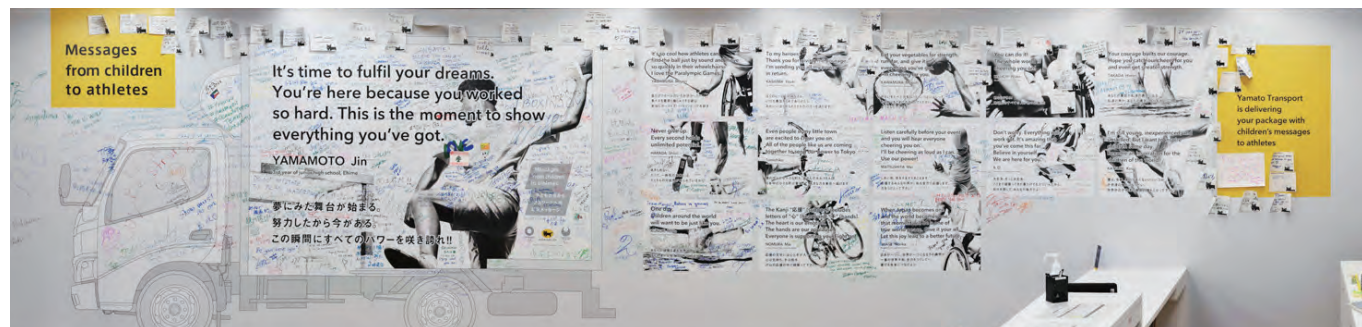
ヤマトはこれからも宅急便に留まることなく、お客様のニーズにしっかり向き合いながら、送る人、受け取る人の想いをつなぐ「次の運び方」を創っていきます。

選手から日本の子どもたちへのメッセージで溢れた、選手村クーリエカウンター

ヤマトホールディングスは「2020年の東京を、応援であふれるTOKYOにしよう」を合言葉に、2019年6月14日～9月8日、「応援メッセージ募集キャンペーン」を展開しました。全国の小・中学生から約14万点ものメッセージが寄せられ、金・銀・銅賞に選ばれたメッセージは、英文にも翻訳され、710台のトラックなどに掲載されて東京の街を駆け巡りました。そして大会期間中、晴海選手村のクーリエ(宅急便)カウンターに掲出したグラフィックウォールに、多くの選手たちが日本の子どもたちへ返礼のメッセージを書き込んでくれるというサプライズがありました。



小・中学生のメッセージを710台のトラック、2,000台の集配台車に掲出



晴海選手村内のグラフィックウォールに書き込まれた選手のメッセージ

©2021 -IOC / -All rights reserved Tokyo 2020